

3. アクティブ・ラーニング指導力に関するアンケートの結果報告

概要

本調査は4年生を対象に2019年度から実施されている。本年度は教職実践演習での振り返りに資するために実施時期を早めて、2021年7月15日（木）～9月12日（日）に、学務ネットを通じて行った。対象学生である846名中、387名から回答があった（回答率45.7%）。

アンケートは全31問であり、次のような三部構成としている。

- (1) アクティブ・ラーニングの授業設計力について問うもの8問、
- (2) アクティブ・ラーニングの児童生徒への指導力について問うもの11問、
- (3) アクティブ・ラーニングのスキルについて問うもの（上記（2）と対応）12問、

結果

（1）アクティブ・ラーニングの授業設計力について問うもの8問

①ALに対する知識

設問3. アクティブ・ラーニング(AL)とは何かを説明できる、暗記再生と意味理解の違いを説明できる、などALがなぜ必要なのかを説明できる

設問8. 協同学習とグループ学習の違いを説明する、協同学習をうまく行うためにはどのようにしたら良いかを具体的に説明する、など協同学習を成立させる工夫を説明できる

②授業設計力

設問1. 授業において解決に対話が必要な課題や問い合わせを設定できる

設問6. 授業において授業のねらいに絞った課題や問い合わせが設定できる

設問2. 次の主体的な学びにつながるような課題や問い合わせが設定できる

設問5. 複数の視点や立場から考えるための教材を準備できる

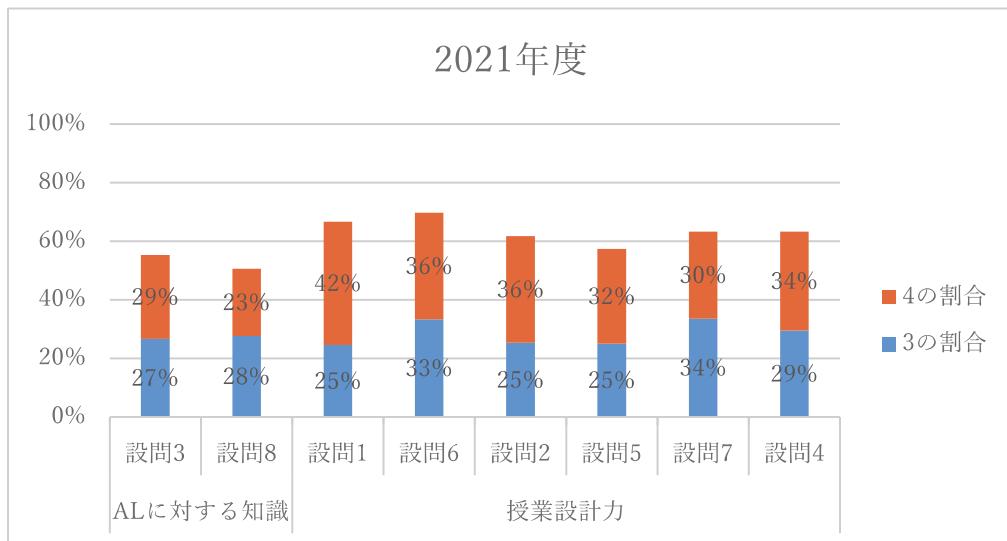
設問7. 授業において、解決策や答えを深めていくような授業計画や単元計画が立てられる

設問4. 授業において、学んだことを実社会や実生活まで広げて考える活動を取り入れることができる

各設問について、いずれも次のような4件法の選択肢から回答を求めた。

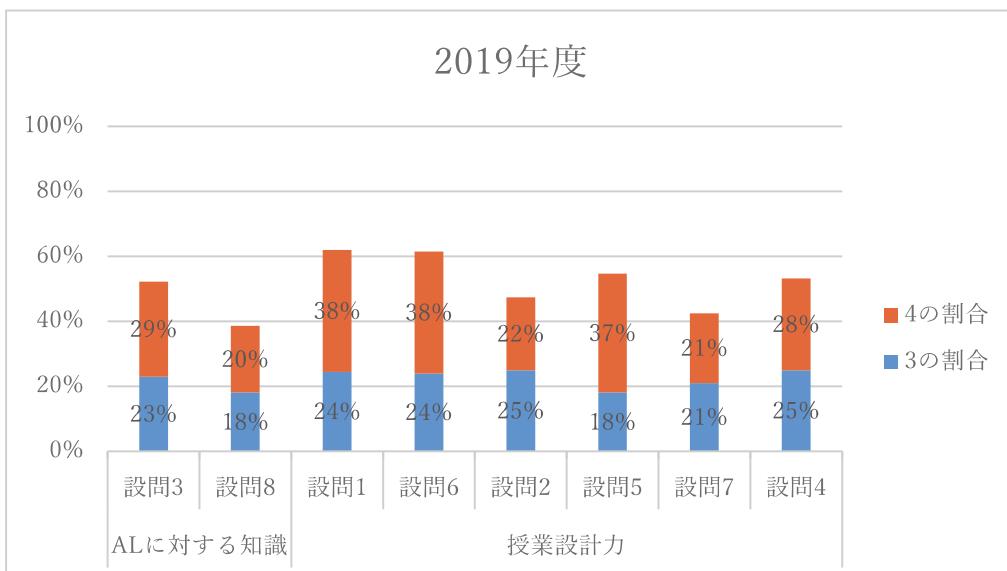
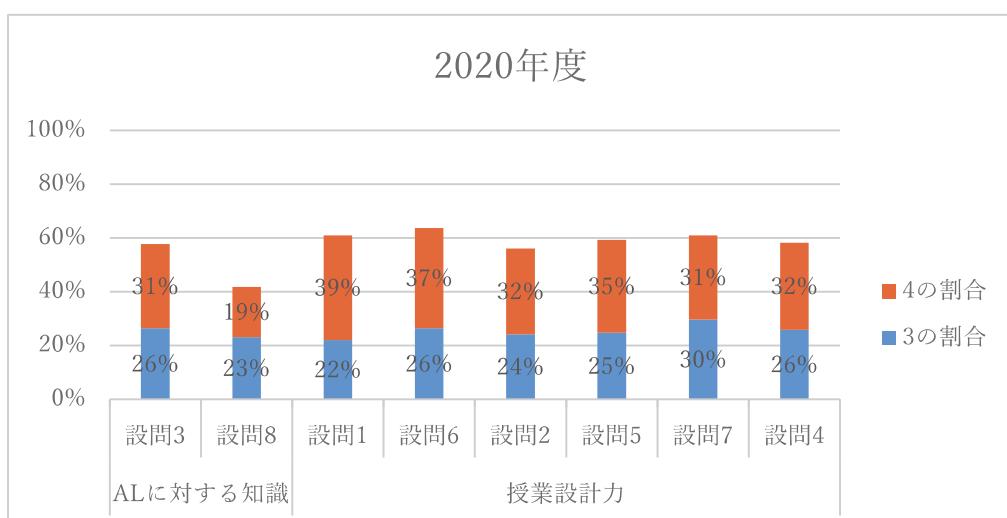
4:具体的な手立てが思いつき、実行できる	2:具体的な手立てが思いつかないが、必要性はわかる
3:具体的な手立てが思いつくが、実行できない	1:具体的な手立てが思いつかないし、必要性もわからない

「4:具体的な手立てが思いつき、実行できる」または「3:具体的な手立てが思いつくが、実行できない」のいずれかの選択肢を選んだ学生合計の割合はそれぞれ、以下の通りであった。



【参考】2020 年度-2019 年度の比較

2021・2020 年度の質問票と 2019 年度の質問票は異なるものであったが、2021・2020 年度の質問票に該当する部分だけを取り出し、設問番号を置き換えて表示した。



(2) アクティブ・ラーニングの児童生徒への指導力について問うもの 11 間

(3) アクティブ・ラーニングの自身のスキルについて問うもの（上記（2）と対応あり） 12 間

①協同学習に必要な力を指導する力・協同学習に必要な力

（対応関係のある設問については、その番号を（2）・（3）の順で示す）

設問 14・26. 協同学習において、自ら積極的に発言する、役割を遂行する、やりやすい雰囲気を作る、

メンバーと協力するなど、積極的に活動に参加する態度を育成できる（身についている）

設問 9・20. 協同学習において、メンバーをまとめる、役割や仕事を割り振る、意見をまとめる、議論を進行するなど、リーダーの役割を担う態度を育成できる（身についている）

②話す力や聴く力を指導する力・話す力や聴く力

設問 16・28. 自分の意見を、積極的に、感情的にならず冷静に、自信をもって、相手を傷つけないようになど、発言できる力を育成できる（身についている）

設問 23. 相手の意見に耳を傾けて、真摯に聞いている姿勢を示したり、あいづちなどの聞いていることがわかる姿勢を具体的に示す、などの態度が身についている

設問 10・21. 他者の意見を聞いて、話の内容を的確に把握する、疑問点を持つなどの聴く力を育成できる（身についている）

設問 18・30. 他者や自分の意見に対して、主観的・客観的意見の区別ができる、比較して共通点・相違点を見つけることができる、など論理的に意見を分類する力を育成できる（身についている）

設問 15・27. 自分の意見に対する相手からの指摘、自分と異なる意見など、他者の意見を受け止める力を育成できる（身についている）

③情報活用能力を指導する力・情報活用能力

設問 12・24. 必要な情報を集める、ある見方で並べる、仕分ける、順位付けする、自分なりに分析した結果を説明できる力を育成できる（身についている）

設問 13・25. 相手や目的にあうようにわかりやすくまとめる・伝える力を育成できる（身についている）

設問 17・29. 自分の学び方を振り返り、自分の学び方を評価したり改善したりする力を育成できる（身についている）

設問 19・31. 評価基準にそって、他者や自己の学びを適切に評価する力を育成できる（身についている）

設問 11・22. 他者の意見を聞いて、自分の意見を振り返る、新しい見方・考え方方に気付く、自分の意見を修正する、自分の意見と融合してより良いものにする、など、自分自身を見つめ直したり、自分の意見を深めたりする力を育成できる（身についている）

各設問について、いずれも下のような4件法の選択肢から回答を求めた。

（2）の設問では

4:具体的な手立てが思いつき、実行できる

3:具体的な手立てが思いつくが、実行できない

2:具体的な手立てが思いつかないが、必要性はわかる

1:具体的な手立てが思いつかないし、必要性もわからない

（3）の設問では

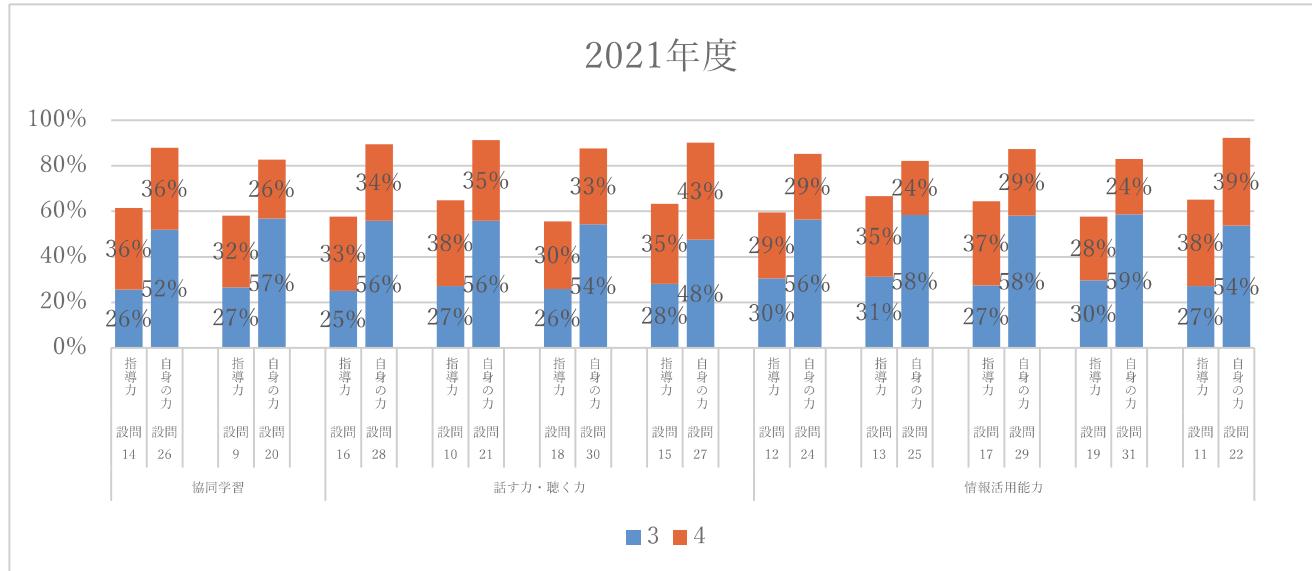
4:十分身についている

3:ある程度身についている

2:あまり身についていない

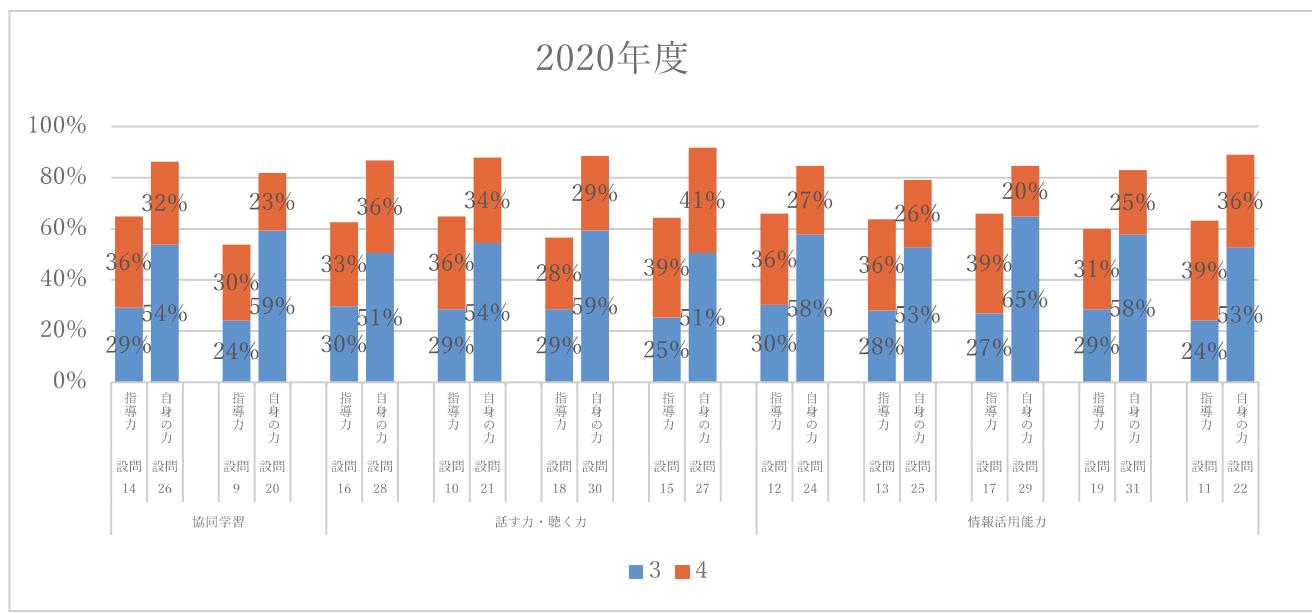
1:身についていない

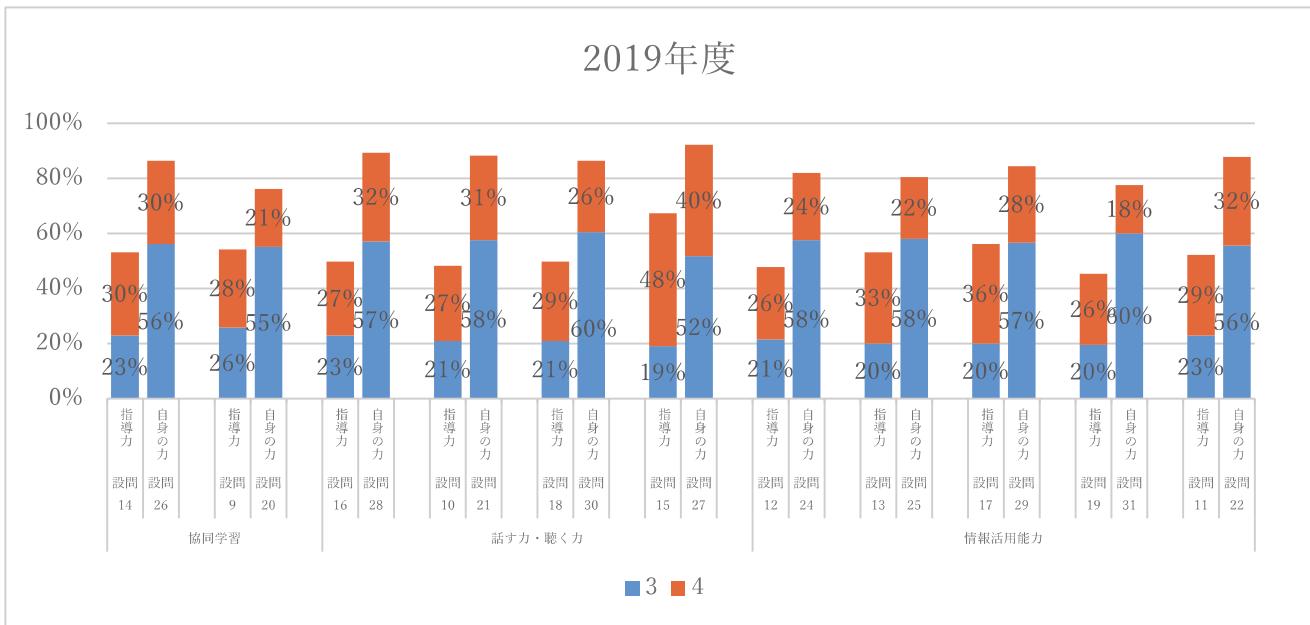
(2)の指導力では「4：具体的な手立てが思いつき、実行できる」または「3：具体的な手立てが思いつくが、実行できない」のいずれか、(3)の自身のスキルでは「4：十分身についている」または「3：ある程度身についている」のいずれかの選択肢を選んだ学生合計の割合について、それぞれ対応関係のある設問ごとに示す。



【参考】2020 年度-2019 年度の比較

2021・2020 年度の質問票と 2019 年度の質問票は異なるものであったが、2021・2020 年度の質問票に該当する部分だけを取り出し、設問番号を置き換えて表示した。





考察

(1) アクティブ・ラーニングの授業設計力について問うもの 8 問

「AL に対する知識」は具体的な手立てが思いつくと答えた学生が 2 分の 1で、実行できると答えた学生はそのうちの半数（全体の 4 分の 1）であった。昨年度・一昨年度と比較しても、大きくは変わっていない。

(2) アクティブ・ラーニングの児童生徒への指導力について問うもの 11 問

「AL スキルを児童に指導すること（協同学習、話す力・聴く力、情報活用能力）」については、6 割程度の学生が具体的な手立てが思いつくと答えているが、さらに実行できると答えたのは、3 割程度となる。一方で、具体的な手立てが思いつかないが、必要性はわかると答える学生は 4 割近くいる。昨年度と比較しても大きく変わっていない。

(3) アクティブ・ラーニングの自身のスキルについて問うもの（上記（2）と対応）12 問

自身の「AL のスキル（協同学習、話す力・聴く力、情報活用能力）」については、ある程度身についている・十分身についていると答える学生が 8 割以上いることがわかる。昨年度・一昨年度と比較しても、大きくは変わっていない。

以上より、AL スキルに関して自分が身についている、また児童生徒における必要性を理解していると考えている学生が多いものの、AL の具体的な手立てを企てる知識や AL スキルの指導力が結びつくまでには至っていない学生も半数程度いることがわかる。